大衆日報

大衆日報社
発行責任者：越川和憲
銚子市春日町3218-1
電　話0479(25)0030
FAX 0479(25)1100
電子メール
taishunippo@wine.ocn.ne.jp
購読料1カ月1,800円
郵　送1カ月2,700円

# 銚子警察署が ガラスリソーシングに支援要請！

## 大地震想定した『総合災害対策訓練』で 警察機能を市立銚子に移転

### 災害用備蓄倉庫"蔵"から物資搬送!! 「太陽に吠えろ」「西部警察」のような緊張感

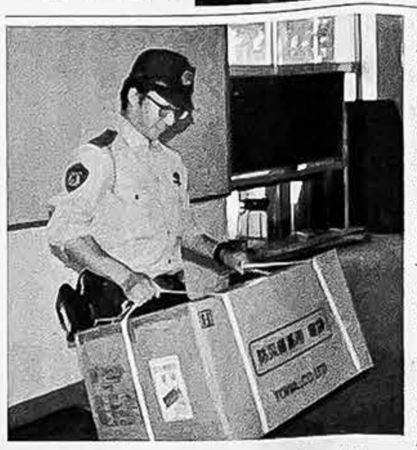
「銚子沖で大地震が発生し、銚子警察署が被災しました！代替施設である市立銚子高校に臨時の銚子警察署・総合災害対策本部を設置しましたので、至急、ガラスリソーシング様からの災害支援物資の搬送をお願いします!!」

銚子警察署から緊迫した支援要請の電話を受けたのはガラスリソーシング㈱の飯野真紀課長。飯野課長が早速、伊藤憲一会長と赤坂修社長にその旨を伝え、イザ出陣。同社の災害用備蓄倉庫"蔵"から食料品や寝袋などを鈴木芳明顧問と大網将史主任が緊急車両で搬送を開始した。あたかも「太陽に吠えろ」か、はたまた「西部警察」のワンシーンを見るかのごとき張り詰めた空気…実は、訓練なので読者の皆様ご安心ください。

9月1日の「防災の日」に先駆け8月30日（木）銚子警察署は大地震発生を想定した『総合災害対策訓練』を実施した。想定は「8月30日午前8時30分、銚子沖で大地震が発生し銚子警察署が被災。市立銚子高校に設けられた銚子警察署総合災害対策本部では本番さながらの無線通信も行なわれた

銚子警察署からの支援要請の電話を受けるガラスリソーシング㈱の飯野真紀課長

銚子警察署機能移転に伴う災害用物資の搬送に協力したガラスリソーシング㈱の大網将史主任


市立銚子高校で災害用物資の搬入を行なう銚子警察署員

市立銚子高校で災害用物資の搬入を行なう銚子警察署員

鈴木芳明顧問と大網将史主任が乗ったガラスリソーシング㈱の緊急車両が災害用備蓄倉庫"蔵"を出発！

代替施設である市立銚子高校音楽棟3階に臨時総合災害対策本部を設置するに伴い、かねてより大規模災害時における施設・重機の使用及び防災備蓄物資の供給に関する協定を締結していたガラスリソーシング㈱に支援を求める」というもの。

### 重機の使用準備訓練も

この協定は平成29年8月に銚子警察署と同社の間で結ばれたもの。協定では防災備蓄物資の提供に加え、ガラスリソーシング㈱が銚子市春日町の本社に建設した「危機管理棟の使用」も含まれているが、今回はこちらは使用せず、緊急物資の搬送訓練と同社が成田工場に保有する重機の使用準備のみに的を絞って訓練が行なわれた。

銚子警察署の代替施設となった市立銚子高校にガラスリソーシング㈱の緊急車両が到着するや、署員たちがスピーディーに緊急物資を校舎内に運び込み、臨戦態勢が整えられた。同社から運び込まれた物資は次のとおりで、残暑の中、署員たちは大汗を流しながら搬入に追われた。また、留置被疑者の避難誘導訓練も本番さながらに行なわれ、被疑者役警察官の演技力の高さにも驚かされた。

▼ガラスリソーシング㈱からの緊急物資（カッコ内は個数）

①救急箱（3箱）
②災害用備蓄パン（24個入り4箱）
③長期賞味期限食品（50袋入り3箱）
④保存水（2000㎖16本入り1箱）
⑤アルミブランケット（80枚入り1箱）
⑥担架（1台）
⑦災害自転車（1台）
⑧防災用ウエットティッシュ（108個入り1箱）
⑨防災用ロープ（200m1本）
⑩寝袋（10枚入り2箱）
⑪セブンオーシャン（24個入り3箱）
⑫防災食ポークカレー（50食入り3箱）
⑬防災バッグ（10個）

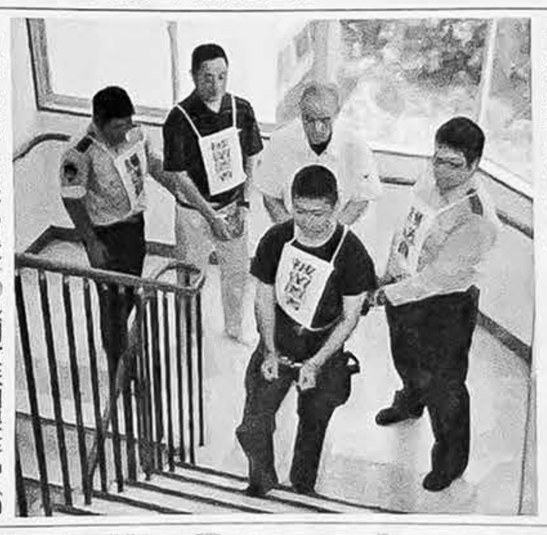
※⑩～⑬は「銚子警察署の防災力向上のために」と訓練後、ガラスリソーシング㈱から同署に寄贈された。

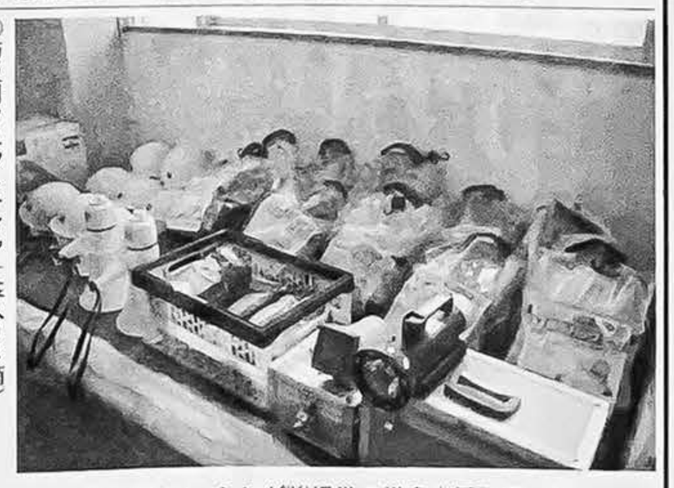
災害用自転車の搬送を行なったガラスリソーシング㈱の鈴木芳明顧問と大網将史主任

市立銚子高校に設けられた銚子警察署総合災害対策本部

ガラスリソーシング㈱成田工場で、訓練に参加した油圧ショベル、ホイールローダーなど（上）とトラック群

市立銚子高校の伊藤政利校長と話し合う鏑木秀樹・銚子警察署長


市立銚子高校では銚子警察署の「留置被疑者避難誘導訓練」も行なわれた。被留置者役は、いずれも銚子署のおまわりさんです


ガラスリソーシング㈱提供の災害支援物資の数々

## 「反省点を本番に活かせ！」

### ガラスリソーシングの「ご協力に感謝」と鏑木秀樹署長

一方、「大地震により停電が発生し、信号機の機能がストップ。銚子署員による手信号で交通整理を行なうとともに、発電機による信号機復旧を目指す」と想定した訓練は銚子市三崎町のセブンイレブン・ドーバーライン店前の信号で行なわれ、こちらも署員が奮闘しスムーズに交通整理が行なわれた。

訓練を終え、鏑木秀樹・銚子警察署長は、「今日は自主参集訓練・信号機訓練・留置被疑者避難誘導訓練、そして最後に銚子警察署機能移転訓練を行ないました。残暑の中、大変お連れ様でした」と述べ、次のように署員に向けてあいさつした。

セブンイレブン・ドーバーライン店前では銚子警察署による手信号の訓練も行なわれた

▼鏑木秀樹・銚子警察署長

「銚子警察署機能移転訓練」は今年に入って初めての実施でしたが、ガラスリソーシング様のご協力もありスムーズにできました。しかし、本番ではなかなかスムーズにできないこともあると思いますので、引き続き訓練を行ない、この訓練の反省点を"もしもの本番"に活かしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

訓練で安全走行を呼びかける銚子警察署交通課の平山正二さん

### 銚子市の当番医

【9月9日】
▼内科
▽力武医院（新生町）
☎23-0520
▼外科
片倉外科医院（清水町）
☎22-5600

---

## 野球今昔 ～そして未来へ～（123）

銚子市行政アドバイザー　木樽正明

### 巨人軍シリーズ⑥

プロ野球のペナントレースも終盤に差し掛かりましたが、相変わらず巨人軍は厳しい戦いをしています。高橋由伸監督は過去2位、4位と内容は良くありません。今年で3年目ですから、厳しい状況に立たされるかもしれません。過去においても成績次第でオフシーズンには監督問題が取り上げられています。この状況になったら、せめてクライマックスシリーズに残って欲しいものです。

過去を振り返ると清武英利球団代表になってから積極的なチーム改革に転換して、我々編成部のアマ、プロ・スカウト部門はより厳しく、そして忙しい毎日になったのです。

### 韓国行き命じられる

巨人軍は以前から「抑え投手」と「外国人」の補強が大きなポイントになっていますが、ずっと解決できていないのが実情です。そんな中、極秘の韓国行きを命じられたのは、その抑え投手の視察でした。「イエスかノーか」獲るかどうかを決定する訳で、重要な役割であることを自覚し、緊張感を持っての韓国行きでした。成田空港から仁川空港へ。球団事務所であらかじめ必要な項目を書いておいたメモ用紙をタクシーの運転手に見せてホテルまで。言葉が通じないのは気疲れするものです。その夜、「韓国シリーズ」の観戦に向かったのですが、球場に到着してチケットを求めたところ、言葉が通じないこともあって窓口ですったもんだしていると、少し日本語の分かる職員が来て分かったのは、韓国シリーズは前売り券でしか入場できないシステムだったのです。状況を知らないままに行った私のミスでもあったのですが、そこで引き下がる訳にはいかないので、こうなっては仕方なく身分を明かして何とか入場することができたのですが、「極秘視察」はどこへやらでした。また、試合球場が変わって視察に行くと、球場前でその球団の役員が待ち構えていて、顔を見るなり「木樽さん、あちらで球団社長が待っています」。私が韓国シリーズを視察に来ていることがすでに知られていたのでした。帰国後、清武代表に報告したところ、「韓国でも有名な木樽さんを極秘で行かせた私が悪かったのです」と。

木樽正明・銚子市行政アドバイザー

### 獲らない判断正しかった

私が視察に行った選手は後にヤクルトに入団した林昌勇（イム・チャンヨン）投手でした。当時見た姿は腕が振れず、どこか違和感があるような投球で、過酷な抑えは厳しいと判断し、帰国後、清武代表に報告したのでした。案の定、肘の故障を抱えていて、その年のオフにアメリカに渡り手術をするとの報道で、私の判断は間違っていなかったと安堵したことを覚えています。あそこで「獲る」と決断していたら、私の信用は失墜していたことでしょう。

一方、外国人選手も巨人は昔から失敗が多く、補強の課題になっています。巨人軍には外国人を獲るための「国際部」という部署がありますが、しかし、当時は残念ながら野球の経験者はいませんでしたので、機能するはずはありません。外国人の通訳、英語やスペイン語など堪能な人が所属しているだけでした。日本のプロ12球団の外国人の補強は、主にアリメカのプロ12球団の選手です。30球団の中から日本のプロ野球に行きたい選手のリストが作成されます。その中から日本の12球団が取り合って補強することになるのです。また、逆にエージェントから売り込みのビデオテープを日本の球団に送りつけてくることもあります。当時、国際部から呼ばれてそのテープを見せられましたが、セールスビデオなので「いい場面だけ」選んで撮っている訳です。やはりしっかり現地に行って、それ相応の期間を見なくては結論を出せないのは当然でしょう。セールスビデオを観て数億円の買い物をしますか？おかしいでしょう。清武代表に話し、現地に駐在員を置き、「じっくり観察するシステムを作る必要がある」と進言しました。翌年には元巨人でメジャー経験のある人をアメリカに派遣したのです。清武代表の決断は早く、巨人の改革を目指していたのです。それまでの球団代表は相手球団から来たら考えようと殿様商売だったのを巨人からの攻めの商売に転じたのです。清武代表は読売新聞の会長であった渡辺恒雄さん、通称・ナベツネさんの後ろ盾もあり、ますます大きな野心と強大な権力を持つに至ったのです。

（つづく）